

沖縄県指定建造物・史跡 美崎御嶽の概要

御嶽は、イビと呼ばれる聖域や、拝殿等で構成されています。一般的に、イビは男性が入ることは禁じられています。そのほかにも、儀礼を行う際に利用する場所であることから、様々な制約があります。

その中でも、美崎御嶽は公儀御嶽（クギオン）であり、古くから、現地役人が旅立つ際の願い事や、王府役人の離着任時、農耕儀礼を行う際に高官や大阿母が礼拝する場所として利用されてきました。

石垣で囲われた境内の中央部付近（拝殿の東側）には、石門が作られていて、その奥にあるイビと空間を分けています。門の上には、火炎宝珠が配され、この造りは、小規模ながら首里の園比屋武御嶽に類似すると言われています。

美崎御嶽は、1956（昭和31）年2月20日に、建造物と史跡の両方で、沖縄県の指定文化財となりました。



用語解説

御嶽：ウタキ・ウガン・オン・ワン・ワーなどと呼ばれる聖地の呼称。神社仏閣とは性格を異にするもので、村を愛護する祖霊神や島立、村立に関係する神、祝福・豊年等をもたらす神、航海安全の神などが祀られている。

イビ：イビ・イベ・ウブと呼ばれ、御嶽の内奥にある神域で神の依代とされる。空間そのものであったり、巨石・巨木・神木、墓など、その中にある聖なるものの存在は一様ではない。

大阿母：オオアム・オオアモ（オオがウフになる場合も）と呼ばれる琉球王国の上級神女（役職）。地域の国家的祭祀司祭権と神女・神司の監督権を担っていた。琉球王府時代、同職になるには辞令があった。八重山では、ホールザーと呼ぶ。永良比金（エラビンガニ・イラビンガニ）も神女の役職である。



美崎御嶽とオヤケアカハチ事件

1500年に石垣島大浜にいたオヤケアカハチが起こした反乱を鎮めるため、中山（ちゅうざん）と宮古の軍勢が、石垣島を攻めてきました。これを、オヤケアカハチ事件と言っています。

彼らが帰途につく際、真乙姥（まいつば）という女性が、当時、美崎ヤマと呼ばれていたこの場所にこもって、中山軍が無事に沖縄島までたどり着くよう、断食祈願を行ったと伝えられています。中山軍は全船とも無事に戻ることができたことから、この土地は霊験あらたかだと、ここに御嶽を建てました。

この美崎御嶽の創建以降、八重山地域の神女も琉球の神女組織に編入され、大阿母や永良比金の役職を与えられるようになったそうです。なお、八重山で最初の大阿母は多田屋遠那理（ただやおなり）、永良比金は真乙姥でした。琉球王国全体を通じ、政治は男性の役職が付きますが、祭祀については女性が司り、聞得大君（きこえおおきみ）を頂点とした神女組織がありました。



美崎御嶽を見学なさる皆さまへ

ここは、指定文化財であるとともに、現在でも、祭祀行事に利用されている場所です。

地域の人々がたいせつに守っている聖域なので、立ち入り禁止区域にはぜったいに入らないよう、ご協力ください。

なお、豊年祭等の際には、見学できないこともあります。地域の民俗文化財を保存・継承していくために、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、鳥居がある入口付近は民家があり、レンタカー等を進入すると迷惑になる場合があります。近くの駐車場など、広い場所に車を止めて見学してください。